

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	ぐるーぷほーむ樹林	評価実施年月日	平成21年6月5日～6月16日
評価実施構成員氏名	山崎光義、遠山由美、村上佐喜子、高山洋子、河内伸玄、塚原さゆり、坂本美恵子、山崎禎人、中村海、鍵政則子		
記録者氏名	山崎光義	記録年月日	平成21年6月16日

北海道

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>地域密着型事業所としての理念とした。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>全体ミーティング、日日のミーティング及び勉強会において職員全員で理念共有し、実践に取り組んでいる。</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>町内会の会合、地域の集まりやイベントの参加を通じて事業所の実践を伝えるようにしている。</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>散歩に出かける等日常的に挨拶、会話を交わしている。庭に咲いている花を持ってきてくれたりと近所の人と触れ合う機会が多い。</p>		
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>敬老会、町内の夏祭り、子供育成会の行事に参加、町内の消防訓練等に参加することで地元の人たちと交流することに努めている。</p>	○	<p>今後ともサービスの意義の理解を深め町内会活動等のかかわりを深めてゆきたい。</p>
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>職員の1名は認知症サポーターとして活動し、認知症ケアの啓発に努めている。また町内の民生委員の方と連携をとりながら認知症の理解を深める活動をしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>職員全員で自己評価を行い、意義を確認サービスの質の向上に努めている。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>現在取組んでいる内容について報告、意見を求めるようにしている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>認知症職員研修及び勉強会の際には市職員と連絡をとりながら研修場所として事業所を活用して貰えるようにしている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>地域ケア会議等を通じて積極的に学ぶ機会を作っている。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>地域ケア会議への参加、勉強会を実施して学ぶ機会を作り高齢者虐待防止に向けた取組みを実施している。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>契約及び解約の際には、十分な時間をとり納得の行くまで説明、疑問に答える等理解・納得を得るようにしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の日常の言動等に注意を払い、その思いを察する努力を忘れずに、利用者本位の運営を心がけている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	家族の来訪時及び電話、手紙等の方法を用いて定期的にあるいはその都度日常生活の様子、健康状態等について報告している。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱の設置及び来訪時の面談により意見を聞く機会を設け、それを運営に反映させている。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	全体ミーティング、日々のミーティング及び週2回の勉強会等の時間を利用し職員の意見、提案の機会を設け、それを運営に反映させている。	○	今後も今まで以上にあらゆる面において職員の意見を取り上げ、サービスの質の向上に向けた取り組みをしてゆきたい。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	柔軟な対応が出来るように勤務の調整につとめている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	馴染みの関係の継続が重要と考え職員の異動も極力なくすよう努力している。やむを得ず異動があるときはその引継ぎや時期を慎重に検討し最善の努力をしている。	○	今後ともなじみの関係の継続の重要性を認識し細心の注意を払い、対応してゆきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>計画的に研修の機会を作り、また働きながらのトレーニングの重要性を認識し職員の質の向上につとめている。</p>	○	実践者研修、管理者研修等への計画的参加によりレベルの高い職員を育てる取り組みをしてゆきたい。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>他のグループホームの見学、研修及び事例研究を通してサービスの向上につなげている。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>日常や面談を通して職員の悩み・ストレスを把握するように努めている。</p>	○	他の事業所との交流、見学、親睦の機会を作りストレスの発散、気分転換を図れる場を作るようにしてゆきたい。
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>休日の配慮、資格取得に向けた支援をすることで向上心をもって勤務できるようにしている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>相談の初期の段階から管理者、計画作成担当者、介護主任等が面談し本人の思いを確認するとともに、体験入居により不安を払拭する機会を作り信頼関係の醸成に努めている。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>相互の納得の得られるまで面談の機会を設け家族の思い、希望を理解し事業所としての対応について話し合いをしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受けたときに、本人・家族の状況、思いを確認、どんな支援が必要か見きわめ、往診・訪問歯科・訪問美容等の外部サービスも含めた対応に努めている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人・家族等を交えて職員との面談の機会を持ち、また体験入居等の段階を経ながらなじみの関係を醸成し、納得した上でサービスを利用していただけるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	一緒に生活しながら喜怒哀楽をともにし、人生の先輩として尊敬の念を抱きながら、生活の技や文化の大切さを学ぶことでともに支えあえる関係づくりに努めている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族の来訪時及び電話等により定期的に、あるいはその都度本人の状態を出来るだけ詳しく説明することで一緒に本人を支える関係を築いている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	本人、家族の状況を確認しながら外出・外泊で一緒に過ごす時間を作りまたホームの行事にご家族に参加してもらうことでよい関係がきずいて行けるように支援している。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	明るく楽しい、誰もが安心してほむを訪問しやすい雰囲気を作り出すことで多くの方の訪問を受け、また外出外泊を気軽に行なってもらうことで可能な限りなじみの人や場所との関係が途切れないようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者一人ひとりの他者への思い、関係性の把握に努めスタッフルーム当を有効に活用してお互いに不快な思いをしないように努めている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	お見舞いをかねて定期的に伺う、ご家族には電話連絡等により関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のかかわりの中で把握に努めている。意思疎通の困難な方はご家族等からの情報を元に把握に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用前の情報及び入居後においても絶えずアセスメントを繰り返しながら本人、家族、関係者の情報を元に把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日常の生活リズム、バイタルチェック、言動等を通して総合的に把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	日々のかかわりの中で本人、家族の思い・意見を把握し、職員全員でアセスメント、意見交換を行ないながら主治医の所見を含め介護計画を作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期的に見直しを行なうとともに状態の変化が生じた場合は随時見直しを行い現状に即した介護計画としている。		
38 ○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	水分及び食事摂取の状況、排泄の状態及びバイタル等記録をし、勤務前には確認をしている。また入居者の変化にきずいたときは記録、報告、職員間で情報を共有することで介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	医療機関との連携、ボランティアの協力、勤務調整を柔軟に実施しながら支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域との各種の接点を見出し周辺各種機関等への働きかけやボランティアの協力を得ながら支援している。		
41 ○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	地域の図書館の利用、ボランティアの協力、他のサービス事業者と連携しながら支援している。		
42 ○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	必要に応じて地域包括支援センターに相談、情報交換等を行い協力関係を構築している。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。	事業所の協力医の支援を受けながら日常の健康管理を実施、またかかりつけ医の有る方はかかりつけ医の医療を受けられるように支援している。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	専門医の協力を得ながら何時でも診断・治療が受けられるように支援している。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	協力医院を通して看護職の支援が得られるようにしている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には、詳細な情報提供に努めるとともに出来る限り職員が見舞うようにしている。また家族及び病院関係者と病状等について情報交換しながら早期退院支援に結び付けている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	本人・家族の意向、主治医の意見をふまえ事業所としての対応の限界を確認しながら繰り返し話し合いをしながら全員で方針を共有している。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	医療との連携、職員の力量の向上に努めるとともに諸条件の整備を進めている。	○	今後重要になると思われる重度のあるいは終末期の利用者を支えるために医療との連携を深め職員の力量の向上等の諸条件を整備し出来る限り対応するようにしてゆきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>これまでの暮らしの継続性が損なわれないように生活環境、支援内容、注意点等について情報交換を綿密に行い、きめ細かい連携をこころがけダメージを防ぐことに努めている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>ミーティング・勉強会を通じて職員の意識の向上とともに日々の関わり方を全員で話し合い入居者の誇りやプライバシー損ねることのないようにしている、また他の家族や外来者に対して個人の情報を話すことのないようにしている。</p>		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>一人ひとりに合わせた声かけ、希望の聞き取り等を行なうことで単一的・強制的ではなく選択肢を持たせる等可能な限り対応している(食事、入浴、衣服の選択、レクへの参加等)</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>その日の予定を(通院・催し物)個別に伝え、各人が予定立てすることを尊重している。昼間体の臥床等、本人の体調、希望等を最大限考慮し支援している。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>朝、夕の着替え等については、本人の意向で決めているが自己決定が難しい場合は、職員が提案している。また月1回の異動美容室では本人から直接美容師に希望を伝えて貰い本人に意見を最大限尊重している。</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>おやつメニュー、食事のメニュー・調理法等入居者の希望を取り入れながら調理、配膳、下膳等利用者と職員が一体となって行なっている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	職員は、一人ひとりの嗜好を理解しており、本人の様子や時間を見ながら楽しめるように支援している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	時間、排泄の量等をチェックシートを用いて確認している。データーを基に個々に合った下着等を着用している。1日の水分摂取量を考慮しながら気持ちよく排泄できるように支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴予定日も柔軟に設定し、その日の体調・希望により入浴できるようにしている。また時間を制限せずゆったりと満足感を得られるように支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中の活動を促し、1日の生活にメリハリをつけている。個々の体調、表情、希望等を考慮しゆっくり休息が取れるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	個々人の得意なことを把握し、1日の中で必ず1回は満足感、充実感を感じてもらえるように支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	一人ひとりの能力に応じて、金銭を所持、買い物等できるように支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気、本人の希望・体調等に応じて季節を肌で感じてもらい、心身の活性化に繋がるよう家族の協力も仰ぎながら日常的に散歩、買い物、ドライブ等に出かけている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	入居者の思い出の場所、故郷等遠距離の外出・外泊等については、家族の協力を得て事前に綿密に計画・調整しながら支援している。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	気軽に電話をすることが出来る雰囲気づくりや職員から声かけを行なうとともに、手紙等書く際には依頼があればお手伝いをし、投函時には必要な支援をしている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族、友人、親戚の方々に出来る限り訪問していただけるよう誕生会、焼肉パーティ、レクリエーション等を企画している。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	全体ミーティング、勉強会等を通して理解・認識を図っている。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は安全面に配慮し、見守りを徹底施錠はしていない。ただし夜間は防犯上の観点から施錠をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は、入居者と同じ空間で事務作業を行ないながら、さりげなく全員の状況を把握するよう努めている。夜間は定期的に巡回を行い離床時には直ちに対応できるようにしている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	薬は薬品棚で管理し、包丁等の刃物に関しては夜間は施錠管理している。一部入居者本人が使用している果物ナイフ、鋏等は自己管理してもらっている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	個々の心身状態から予測される危険を検討し、事故を未然に防ぐ工夫に取り組んでいる。誤嚥の可能性の高い入居者については食事支援や服薬方法を工夫している。避難訓練や緊急対応に備えたマニュアルを作成している。年に2回は消防署と連携し避難訓練等を実施している。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	定期的に初期対応の訓練を実施するとともに、消防署の実施する救命救急講習等の教育を受講している。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	マニュアルを作成し、年2回通報、避難、消火訓練を実施している。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	ケアプランへの理解も含め、一人ひとりの起こりうる危険について家族に説明し行動を抑制しないケアのあり方について話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日々のバイタルチェックはもとより食事、入浴、排泄等日常の様子をしっかりと観察し、状況により医療受診等の対応を速やかに行なっている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	写真入の薬の説明書ファイルを作成し、職員全員が副作用、用法等について理解を深め、服薬の際には本人に手渡し服用を確認している。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	水分摂取確認表を作成、各人の目標摂取量を定め、それをクリアするように支援している。また献立の工夫により繊維質の多い食品を摂る様になっている。	○	便秘の及ぼす影響の理解をさらに深め、1日に水分摂取についてその方策をさらに追求するとともにかかりつけ医と連携し緩下剤の使用を減らすようにして行きたい。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	食後は必ず口腔ケアを日課とし、臭いや汚れが生じないように支援している。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	献立表により量、栄養のバランス等を確認。水分は各人の体重の3%を目標としそれをクリアするように支援している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	取決めがあり、日常的にうがい、手洗いの徹底を図っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	まな板、布巾等は定期的又は毎日漂白殺菌を実施、冷蔵庫も定期的に消毒している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	建物の周囲には、花畑、畑があり玄関にも観葉植物を置く等の工夫をしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節の花、飾り等を配置、家具の配置等は入居者と一緒に行い、ここが自分の家だという意識を持って生活できるようにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファをところどころに置き、談話コーナーを設ける等の工夫により一人で過ごしたり入居者同士で寛げるようにしている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室内の配置は、入居者に決めてもらい、また配置換えの希望等も取り入れ使いやすさに配慮しながら支援している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	入居者の様子あるいは温湿度計を確認しながら快適に過ごせるようにこまめに調整を行なっている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>入居者の状態に合わせて手摺を増設する等の処置をしながら安全かつ出来る限り自立した生活が送れるよう配慮している。</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>失敗、混乱を招かないように職員間で常に検討し、状況に合わせた環境整備をしている。</p>		
87	<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>建物の周囲には花畑、畑等のスペースを確保し、畑仕事等を楽しむことが出来るようにしている。</p>		



V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input checked="" type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての家族 <input type="radio"/> ②家族の2/3くらい <input type="radio"/> ③家族の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input checked="" type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている  <input checked="" type="radio"/>②しずつ増えている  <input type="radio"/>③あまり増えていない  <input type="radio"/>④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が  <input checked="" type="radio"/>②職員の2/3くらいが  <input type="radio"/>③職員の1/3くらいが  <input type="radio"/>④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p><input checked="" type="radio"/>①ほぼ全ての利用者が  <input type="radio"/>②利用者の2/3くらいが  <input type="radio"/>③利用者の1/3くらいが  <input type="radio"/>④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が  <input checked="" type="radio"/>②家族等の2/3くらいが  <input type="radio"/>③家族等の1/3くらいが  <input type="radio"/>④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載) 1 水分摂取量を体重の3%を確保におき便秘の改善に努めることで精神的、肉体的安定を図っている。2 毎食後口腔ケアを実施することで嚥下障害の予防に努めている。3 適度な運動量を確保することで食事をおいしく頂き又夜間の良眠に役立つよう散歩、ラジオ体操を毎日実施している。